

## 小児周産期災害リエゾンとは？

リエゾン Liaison: 関係・連絡・連携

1

東日本大震災で見られた小児・周産期医療における問題点

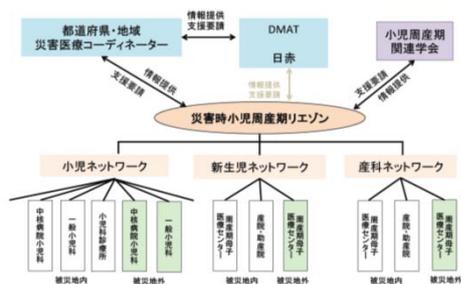
### 災害時の連携の問題

- ・周産期医療施設間の連携
- ・周産期医療とDMAT・行政の連携
- ・コーディネーターの不在

→災害時小児周産期リエゾン

4

小児周産期災害リエゾンとは、**災害時に県庁**(災害対策本部)で、さまざまな**連携機能(リエゾン)**をはたす



2

### 災害時小児周産期リエゾン(略称:小児周産期リエゾン)

Disaster Liaison for Pediatrics and Perinatal Medicine

- ・都道府県が委嘱する専門職(国などが認定する資格職でない)
- ・都道府県による役割が多少異なる
- ・災害医療コーディネーターと同様の扱い

5

### DMAT (Disaster Medical Assistance Team)

大規模集団災害において、**災害急性期に災害時医療**を行う医療チーム

一方で周産期医療に詳しいひとはほとんどいない

3

### 大規模災害が発生すると

徳島県は災害対策本部を県庁に設置する

DMAT本部も設置される

**小児周産期リエゾン**は**県庁**(災害対策本部・DMAT本部)に招集される

6



# 小児科医師派遣依頼文書の発出(4月18日)

震災第31号  
平成28年4月18日

県から学会への正式な書類が必要

熊本県看護福祉課

小児科医師の派遣依頼について、(後編)

印渡より、本県地域医療に制し、特別の御支援、御協力をお願いいたします。平成一  
 年熊本地震災害により、県内を中心に甚大な被害を受けております。  
 災害は人命が最優先となります。被災地では、避難所等の被災状況によ  
 り、全県からの被災支援を受けながら、復旧に努めていただいております。  
 こうした中、被災のため機能が停止した医療機関が数多くあり、小児科に不足して  
 いる。下関市などの医療機関を中心に制していることですが、患者の命を守る  
 ため、同県医師小児科医だけの対応が不足状態に陥っております。  
 一方で、日本全国各地で医師の派遣を受けており、各地で制を受けている。一  
 に制に付しますが、平成一より小児科医師の派遣を求めています。お願ひ申し上  
 げます。貴学会におきましても委員の御協力にお願いいたします。特別の御支援をお  
 願ひ申し上げます。

記

- 1 派遣をお願いする期間  
 即日開始
- 2 派遣先  
 (1)熊本大学学術附属病院  
 〒961-8602 熊本県中央区本庄 1-1-1 電話: 096-344-2111 (代)
- (2)熊本赤十字病院  
 〒961-8602 熊本県中央区長崎町 2-1-1 電話: 096-384-2111(代)
- 3 派遣人数  
 両大学合計4人/10程度

署名: 看護長 佐藤 隆  
 電話: 096-232-2222  
 E-mail: Takemura@nursing.kumamoto-u.ac.jp

平成28年熊本地震時

小児周産期災害リエゾンとは、災害時に県庁(災害対策本部)で、さまざまな連携機能(リエゾン)をはたす

